

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームのどか2	評価実施年月日	平成19年12月4日
評価実施構成員氏名	鳥海まき子、村本亜矢子、川島里奈、山田美紀子、高橋絢子、藤本まち子、大平巖雄、坂口圭太、川口容子		
記録者氏名	鳥海 まき子	記録年月日	平成19年12月5日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	全スタッフでのどか独自の理念を作りあげている。		
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルームに掲示しており、朝の申し送り時に復唱し、理念の実現の努力をしている。		
<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念を玄関及びリビングに掲示しているので、ご家族の方は訪問時目にする事ができる。また、地域には、運営推進会議で知らせている。		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	運営推進会議で気軽に立ち寄ってくださる様話をしている。散歩の時、庭の花を見せて頂き話したことはある。また、施設前の公園散歩において地域の人たちと触れ合うこともある。		
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	ケアハウスの行事などを通し、交流している。また、地域の小学校学芸会、町内の文化祭等に参加している。また近隣の幼稚園に対しては施設行事の際、遊戯を披露してもらい交流を深めている。		
<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議に町内会長が出席されているので地域の様子は聞いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>評価は、スタッフミーティングでもとりあげ、日頃行っていることの振り返り、気づきにつながることで、その意義については理解している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>様々な話が聞けるので、サービス向上に活かしている。また、運営推進会議の場で出された意見は尊重し取り上げることに努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>グループホーム連絡会の研修会に市の担当者の方を招き、お話を聞き、サービスの質の向上にとりくんでいる。また、系列の医療法人が市のグループホーム協議会の事務局を勤めており市と意見交流の機会が多い。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>地域権利擁護事業及び成年後見制度について施設内研修を実施予定であり、系列医療法人の医療相談部においては具体的な対応も行っている。また成年後見制度を希望した方がいた。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>高齢者虐待防止法に関するファイルを部署に置き、浸透を図るとともに、研修会に参加したり、ミーティング等でも話し合っている。また、施設内研修も行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>十分に話し合い説明をして、納得していただけるようつとめている。入院において長期化が予想される場合は、医療機関とも連絡を密にとり利用者に不利益が生じないよう話し合いを持つようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設全体に関わることについては、運営会議・サービス向上委員会において意見をのべ、反映させている。 利用者自身が嫌がること、不満等がわかった段階で、すぐミーティング等において職員周知を図るようにしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時や遠方のご家族には電話にて報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の訪問時には、施設長が必ず声をかけ近況を話すようにしている。またご家族の希望等を聞く場になっている。 施設長不在時の時も担当を決め対応するようにしている。 月1回の部所ミーティングや連絡ノートなどで伝え、改善していった。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティングにおいて意見を聞く機会を設けている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	受診時の介助など発生した場合は勤務の調整をし、他の利用者への影響が出ないよう援助するため工夫している。 また、緊急時の対応等については同一施設内の他部署の応援を依頼することもできる。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動等があった場合には、利用者へのダメージを防ぐため一定期間の引き継ぎの期間を設けなじみの関係を築く努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>施設内研修や外部の研修は機会があれば積極的に参加するようにしている。又、研修を受けたスタッフは他のスタッフへ伝達することで情報を共有している。法人本部事務局に研修・管理部門が設置されており、定期的な研修会の開催、新人研修等を行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム連絡会、北海道グループホーム協議会に入会しており、研修や総会等において、他グループホームの管理者やスタッフと交流し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフ間で何でも話せるような環境づくりを心がけている。時々職場外で集まる機会を設けストレス軽減の工夫をしている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>管理者は職員が向上心をもって働けるよう適ぎアドバイス・助言等を行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご本人自身が来られることがほとんどないが、来られた場合はご本人の不安なこと、求めていること等をよく聴き、受け止める努力をしていく。入居申し込み時に困っていること、不安なこと求めていること等を記入してもらうことにより状態の把握に努め、ご家族だけでの見学時にはご本人の見学もすすめている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前面談においては、ご家族・ご本人が求めている事、希望されている事を確認し合い、当施設で可能か否か話し合い説明するようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームありきの考え方ではなく、認知症においても、症状の程度、行動異常の度合など様々なので、現在の状況を見極め、最もふさわしい施設選択をするように本人や家族の話を聞き、スタッフ間で話し合い、個人(本人)に合った支援の仕方を工夫する様努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	系列医療法人が行っている認知症デイケアや当法人のデイサービス、ケアハウスから入所するケースも多く、本人の情報・性格なども把握しながらなじみの関係を重視し、援助をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の先輩であり、いろんなことを教えてもらう事も多く、入居されている一人ひとりの生き方、生活を尊重し、尊厳を大切にケアを行うよう心がけている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族とは面会や電話にてご本人の様子を話しており、一緒に支えていくためにケアについて話し合っている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人の状態など話し、面会時には、御本人達が話しやすい雰囲気や環境作りに心掛け支援している。また、ご家族との関係が疎遠にならないよう毎月の誕生会やその他季節の行事等においてご家族の参加を呼びかけている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ご本人の馴染みの人は面会にも時々来られており、関係は途切れていない様に思われる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	リビングでのだんらんの時間等職員が間に入り、孤立しがちな方も職員を通し皆と過ごせるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	過去利用が終了したケースは死亡による場合と完全寝たきりで食事摂取困難で入院になったケースで、ご本人が施設にに來ることは難しいが、ご家族には介護相談等についてはいつでも対応する旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや意向は日常の関わりの中で話をしたり、職員は感じとっている。希望に沿えるよう、努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人のライフヒストリー、ライフスタイルについては入居前に書式に記載してもらうようにしている。また入居後、ご本人の会話の中からも、たくさんの情報があつまるので、良く聞く様努め知り得た情報は職員にミーティング等で周知するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	申し送りや連絡ノート、個人記録などの把握に努め、各自現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ミーティング時や日常のミニカンファレンス時ご家族とも話をした上でケアの方向性を決めケアプラン作成を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じて見直しを行っている。 ご本人の状態に変化が生じた場合には話し合いの上新たにケアプランを作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子はこまかく記入し、スタッフ間で情報を共有し実践やケアプランの見直しにつなげている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	御家族がケアハウスに入居している方もいらっしゃり、毎日のように行ききしている。ケアハウスや、ディサービスの方にも、散歩に行ったりし、時々交流がある。また、ケアハウスで行うサークル(手芸・フラワーアレンジメント等)や行事に参加し、地域交流を行いその方の社会性の維持に努めるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	施設での行事にて、お祭りではボランティアの方々、敬老会等では幼稚園の子どもたちその他行事の余興ではさまざまな地域の方々にご協力頂いている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	当施設の居宅のケアマネや運営推進会議では地域包括のケアマネと話し合っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議にて助言・アドバイス等頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームには2名の准看護師がおり、施設全体にも看護師・准看護師が24時間対応している。 利用者の健康管理等には気軽に相談でき支援につなげている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関は、系列法人の医療機関で特に認知症を専門に行っている病院であり、嘱託医も同じ病院の医師であるため、利用者の治療や診断には、協力して頂き円滑に行っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームにも、施設全体にも看護師がおり、24時間、365日体制で健康管理・医療活用の支援をしている。 突発的な発熱や転倒等においても、必ず看護職員が状態をチェックするようになっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院関係者とは情報交換をまめに行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期のあり方について指針を作成し、ご家族には説明し、同意して頂いている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	アセスメントシートに「できること・できないこと」を見極めるシートがあり、それを活用し、検討・準備を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>退居時には十分な話し合いを行っている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>言葉づかいはスタッフ間で気をつけ合っている。 記録の書き方等も気を付けている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人が思いを出せるように対応を心がけわかるような話し方に気をつけている。 自己決定できるよう急がずに答えを待つようにしている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ご本人の意向を尊重し、居室で一人で過ごしたい・売店に行きたい、など希望に沿って支援している。 一人ひとりのペースを大切にしたいケアを行いたいと考えるが、時に職員側の都合で希望に沿えない場合がある。 できるだけ入居者優先となるよう努力したい。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>お化粧をしたり、本人の好みの服装を心がけている。理容・美容室は施設内の美容室を希望する方が多く、利用している。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>配膳・片づけは一緒に行っている。 食事は本人の好みのものを提供するよう心がけている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	夕食時には、きまってビールを飲む入居者さんもあり、飲み物やおやつも好みの物を提供するようにしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握するよう努め本人のサインを見逃さずトイレ誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	1番風呂を好む入居者さんには希望に沿えるよう支援している。 また、時に気分転換として、ケアハウスの大浴場に行ったりしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼寝や椅子での傾眠などその時々状況に応じて過ごせるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	1日何らかの仕事をしてきた入居者さんには場面場面ですることを見つけ役割が持てるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人がお金を所持している方も何名かおり、希望により、買い物等に行けるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、散歩・中庭の野菜の手入れ・水やりなどもしている。また雨天や冬期間においては、ケアハウスのロビー等に出かけ、気分転換を図るようにしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	皆でお花見に出かけるなど普段皆で行けない場所への外出支援行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話の希望はその都度電話できるよう支援している。手紙もご本人が書きたい時は必要な支援を行っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時には「またいつでもいらして下さい」等声がけしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフ全員には周知し、ミーティング時などに確認し合っている。身体拘束ゼロに向けての資料もスタッフルームに置いて、心がけるようにしている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	現在、昼夜を問わず、常に外に出ようとする入居者がおり、他の利用者を誘って手をひいて、いこうとする行動もとるため、やむを得ず鍵をかけている。鍵をかけていない時は、数度失踪することがあった。施錠については、施設に入居されているご家族全員に説明を行い、同意を得ている。施錠していることもあり、入居されている方の希望以外にも天気の良い日には外出、散歩に心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はリビングに必ずスタッフが1名は居るようにし所在や様子を把握し、他のスタッフと連携をとり状態把握に努めている。夜間もスタッフはリビングに居り、ちょっとした物音も聞き逃さない様安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	例えばぬいぐるみを所有している入居者さんはいつもかじっており、ボロボロにし、食べてしまう危険性があるのでご家族とも相談し、持ち帰って頂いている。刃物洗剤等は必ず施錠管理し、毎朝チェックしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故についてはミーティングや申し送り時に話し、お互い確認合っている。事故防止の取り組みは危険と感じた場合ミーティングを行いすぐ対応できるようにしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時マニュアルがあり、スタッフ全員に周知している。のど詰まり時の吸引ノズルの使い方もミーティング時に全員で訓練している。普通救命講習に参加する。グループ施設にて急変時の訓練には何名か参加している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議にて町内会での防災訓練への参加のお話を頂いている。施設内でも防災訓練を定期的に行っている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族にはちょっとした変化でも報告し、リスクにうついても話し合い、ケアに結びつけている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日決まった時間にバイタルチェックを行っており、スタッフ1人1人は入居者の状態を把握している。変化や異変があった場合にはすみやかに看護職員にみてもらい受診等の対応をしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的や副作用等については周知している。又、個人記録にも見やすいように閉じてあり、いつでも確認できる。服用後は変化がないか確認し、記録している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便の確認は毎日申し送り時に行っており、便通を良くするような飲食物の摂取や散歩腹部マッサージなど行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	施設長が歯科衛生士でもあり、口腔清掃には熟知しているので、他のスタッフにも教育し、起床時・就寝時には口腔清掃の声がけ、見守りをしている。食事後も食物残渣がある人はうがい、義歯清掃をしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	スタッフは入居者一人ひとりの食事量や好み等把握しており、昼食・夕食については施設の食事を提供しているが好み等に合わせその人に合った形の食事を提供している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設全体での研修などがあり、実行している。 また、ノロウイルスやインフルエンザの流行する時には、張り紙等において症状のある方の面会を制限している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食洗機を使用しており、まな板などは、漂白・殺菌など行っている。 食材は毎日新鮮な物を使っている。 また定期的に法人本部の管理栄養士が衛生管理の状況をチェックしている。また保健所から食中毒警報が出された時はすぐに連絡するシステムをとっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前から門まで庭になっており、植木など植えられている。又、大きく見やすい表札をかけている。RC構造だが、木造風の外觀設計にし、施設的ではなく、住宅のように見えるよう配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	中庭に花や野菜を植え、リビングからながめられる。夏には風鈴を飾ったり、冬にはクリスマスの飾りも採り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	認知症においては、気が合う、合わないがはっきりと表す方も多く、また時に入居者同士の人間関係が変わることもあるので、利用者同士が住み分けができるよう居場所づくりは非常に重要なことと考え、そのため居間の中央部に食堂を配置し、1ユニットに食堂・居間・和室・カウンターと4つの居場所をつくっている。 入居されている方は、お気に入りのそれぞれの場所で過ごしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の使い慣れた家具・生活用品を使用している。居室は約10畳あり、窓下にはベンチもある。居心地良く過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室は湿度センサーを設置している。リビングは定期的に窓や換気扇にて換気を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>不要な障害物は置かず(通路)共用スペースには手すりがついている。見守りながら自力で歩行できるよう工夫している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>ミーティング時に一人ひとりの日常の状態様子を話し、一人ひとりにあったできることをみつけ実践している。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭にプランターで菜園や花だんを作り、いつでも見たり手入れできるよう工夫している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>日頃、入居者とのコミュニケーション時や介助時等に思いを聴けたり、色々会話することで意向を知る。スタッフ間で情報交換している。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>お茶やおやつの時間に一緒にゆったりと過ごしている。 又、一緒に歌をうたったりしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>ほとんどの利用者のペースで暮らせるよう援助しているが、おやつを何度も何度も欲しい、と要求のある入居者には食べる量を考慮し行っている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>職員との関わりを求めて来られる方が多く、調理・洗い物・散歩など声を掛けると積極的に参加してくれる方が多い。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>散歩は天気の良い日に出かけている。 年に数回皆でバス遠足も行っている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>体調不良時や何か変化があったときにはすぐに看護職員にみてもらえ、週に1回嘱託医が往診に来るため、不安なく過ごせる。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>要望等にはすぐに対応するようにしている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>話は良くするようにしており、会話の中で困っている事等聴くようにしている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>利用者さんの御家族がケアハウスに住んでいるので、毎日の様に訪ねてくる。また、専門の音楽療法士による活動やスポーツインストラクターによる軽体操も行っているため、毎日のように訪問者がいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>町内会長や民生委員の方と会議の中でお互いに助け合えることや交流の場(お祭り等)を設けつながりが拡がっていると思う。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>ストレスを抱えているスタッフも多いが、入居者のことを思い、生き生きと働いているスタッフもいる。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>音楽療法や、体操を心まちにしている。中庭のプランター菜園は、利用者さんが水やりをやったりして、楽しんでいる。今後もつづけていきたいと思う。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>遠くの家族には、写真を送ったりしていて、御家族からの手紙もあり、おおむね満足しているかと思う。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

複合施設のためさまざまな人と触れあうことができる。施設でのサークルや行事にも参加し、ホームでも音楽療法など楽しめるレクがある。